

近年大衆クロスカントリー大会は盛んになってきた。北海道では、札幌スキーマラソン、宮様スキーマラソン、セブンスタースキー大会、旭川国際パーサースキー大会が著名である。各地の大会に参加する一般スキーヤーは3万名を越えると言われ、この10年間でシーズンスポーツとして定着してきたといえる。

さて、昨年は、十勝大平原国際クロスカントリー大会の20kmの部に出場し、タイムは不満足であったが、一応完走した。今年は、同じくセブンスター大会の一つであり、残念ながら今回限りで27回の歴史を閉じる事になる「第27回糠平湖～然別湖横断スキー大会」に参加した。本日は、最高の十勝晴れで、風もなく絶好のスキー日和であった。

今朝6時前に出発して集合地点である糠平スキーセンター前に集合する。開会式の後23km組はその場から競技開始、幌鹿峠まで、約10km、比高差は、600m弱である。

僕等のやや錬度不十分グループというか景色を堪能したい者というべきかは、19kmコースに挑戦。まずは、高速リフトで終点まで、前進、そこから道道に進入して頂上までの6kmを時折糠平湖を背景に写真撮影しつつ、歩いて登る。幌鹿峠でふるまわれた豚汁の美味しかったこと。



(幌鹿峠で休止中)

ワックスを調整して（自分では出来ないのので貰ったのだが）、だらだら坂を下る。ワックスもばっちり非常に気持ち良くすいすいと滑る。スタート地点から何度か抜いたり、抜かれたりしたお馴染みさんも苦労している。

山田温泉付近からは、概ね平坦だ。腰や足に負担がかかっている。湖畔のキャンプ場に到着、本来であれば、この付近から然別湖の湖上を滑ってゴールを目指す事になるのだが、氷の状態が思わしくないとかで、残念ながら、くねくねの道道を歩かざるを得ない。従って、実踏破距離はプラス2km程度かな。左手に然別湖を望みながらであるが、疲労も相当に蓄積しているからであろうか、思いとは裏腹に進まない。

視覚障害者とのゼッケンをつけた方がガイドに先導されて走っている。私もついていこうとするのだが、先導者とシンクロした走りは、衰えを知らぬ、みるみる内に離される。大したものである。ハンディを負った方が色々なスポーツ大会等に自由に参加し、健常者と同じ喜びを味わえるようなシステム作りが望まれる。

ゴールは、然別湖の湖畔のホテル前である。見れば、湖上には然別湖畔コタンの村が出現している。大小10個程度のチセであろうか、氷でアイヌの住居が作られ、露天風呂まで設えてある。混浴だそうで、某は良い思いをしたと、後で聞かされたが、僕等はその余裕なくホテルの大浴場へ直行した。

今回参加した大会は、セブンスタースキー大会の一つである。因みに、セブンスター

キー大会は、歩くスキー（クロスカンントリー）を通じて、北海道の大自然に触れ、冬の健康・体力づくり、交流機会の拡大を目的として、趣旨に賛同する各大会開催地が大団結してセブンスタースキー大会を創設したものである。

それらに参加している大会は、

- ① 小生が昨年参加した「十勝大平原国際クロスカンントリー大会」
- ② 網走・女満別で行われる「オホーツク歩くスキーフェスティバル」
- ③ 千歳の「ちとせホルメンコーレンマーチ」
- ④ 美瑛町の「宮様国際スキーマラソン」
- ⑤ 今回参加した上士幌町・鹿追町の「糠平湖～然別湖横断スキー大会」
- ⑥ 遠軽町他4町村の「湧別原野オホーツク100kmクロスカンントリー大会」
- ⑦ 士別市の「サフォークランド士別ピヒカラ樹氷歩くスキー大会」である。

この7大会を完走すると事務で記録され、希望者は完走賞を購入出来ることとなっている。機会を見つけて7大会を完走したいものだが、果たしてどうだろうか？

何れにしろ、クロスカントリースキーの楽しさは、自然との出会いにあると言えよう。最高の味わいは、先行するシュプールのない山野を自由に滑走することであろうが、そのような条件は中々満たされるものではない。誰でも、いつでも、何処でも出来る事に越したことはないが、望むべくもないが、何れ、近似したコースも整備されるのではと期待している。

時間を競うのではなく、仲間と語りつつ、大自然と一体となって、爽快な汗をかくことが本来的なクロスカントリースキーではなかろうか。そういうものを求めている人が多いのだろう。今回もそうだが、帯広の森の練習コースでも中高年の方が多い。そのようか観点で言えば、糠平湖～然別湖横断スキーは、クロスカンントリーのあるべき姿を体現しているといえる。然しながら、今回限りとは寂しい。新たなる大会の設置を切に望むものである。